

教科目標

言語聴覚士科Ⅱ部

1. 養成目的

専門的知識や技術の習熟を目指すと共に、地域社会における専門職社会人として高いコミュニケーション能力や考え抜く力や自ら行動する主体性を身につけ、個性に応じた対応のできる言語聴覚士を養成する。

2. 教育目標

医療・福祉分野において、協調性のある多職種連携力や相手の立場で考えられる力を身につけ、国家試験に合格できる専門的知識を習得する。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
ミッション プログラム	専門基礎分野	医学総論、解剖生理学ⅠⅡ、病理学、内科学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、耳鼻咽喉科学、臨床神経学、形成外科学、臨床医学、臨床歯科医学・口腔外科学ⅠⅡ、呼吸発声発語系の構造・機能・病態ⅠⅡ、聴覚系の構造・機能・病態ⅠⅡ、神経系の構造・機能・病態ⅠⅡ、臨床心理学ⅠⅡ、生涯発達心理学、学習・認知心理学、心理測定法、言語学、音声学ⅠⅡ、音響学・聴覚心理学ⅠⅡ、言語発達学ⅠⅡ、社会保障制度・関連法規ⅠⅡ、リハビリテーション概論	840 (56)
プロフェッショナル プログラム	専門分野	言語聴覚障害概論、地域言語聴覚療法学、言語聴覚障害診断学ⅠⅡⅢⅣⅤ、失語症ⅠⅡⅢ、高次脳機能障害学ⅠⅡⅢ、言語発達障害学ⅠⅡⅢ、音声障害ⅠⅡ、機能性構音障害、器質性構音障害、運動障害性構音障害ⅠⅡⅢ、嚥下障害概論、嚥下障害ⅠⅡⅢ、吃音、小児聴覚障害、成人聴覚障害、聴力検査法ⅠⅡ、補聴器・人工内耳、臨床実習ⅠⅡ	1425 (75)
合計			2265(131)

4. 学年目標

学年	到達目標
1年	主体的に学習する姿勢を習慣化し、言語聴覚療法の基礎を習得する。
2年	学内実習や臨床実習を通し専門的知識や能力を習得するとともに、個別性を重視した柔軟な対応力を身につける。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
言語聴覚士	必	厚生労働省	卒業(卒業見込)で国家試験受験資格が得られ、合格にて資格取得。

6. 就職分野

就職分野	職種
総合病院、リハビリテーション専門病院	言語聴覚士
老人保健施設	言語聴覚士
小児関連施設	言語聴覚士
訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション	言語聴覚士
補聴器メーカー、代理店	言語聴覚士

2022年度 教科課程

〈前期〉 言語聴覚士科Ⅱ部 1年

前期目標

言語聴覚士に求められる適性や基礎知識を理解し、主体的に学習する姿勢を習慣化する。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教科目標
ミ ッション プ ロ グ ラ ム	医学総論	Medical introduction	基礎	必修	講義	15	(1)	医療人として必要な知識、医療倫理・インフォームドコンセント・チーム医療などについて学ぶ。
	解剖生理学Ⅰ	Anatomy and PhysiologyⅠ	基礎	必修	講義	60	(4)	病気や障害を理解するために必要な人体の構造と機能について、組織、臓器、個体レベルで総合的に学習する。
	リハビリテーション医学	Rehabilitation Medicine	基礎	必修	講義	30	(2)	リハビリテーションを医学的側面から学習し、多職種連携のための基礎的な知識を身につける。
	聴覚系の構造・機能・病態Ⅰ	Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅠ	専門基礎	必修	講義	30	(2)	聴器の解剖や生理学的知識と病態について学ぶ。
	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅰ	Physical and Functional Diseases of the Respiratory SystemⅠ	基礎	必修	演習	30	(2)	呼吸器および発声発語器官の形態や機能、音声障害を引き起こす病気について学ぶ。
	神経系の構造・機能・病態Ⅰ	Physical and Functional Diseases of the Nervous SystemⅠ	専門基礎	必修	講義	30	(2)	脳や神経の各部名称を説明することができる。脳・神経疾患の病態や治療を学び、患者様の障害像を理解する。
	音声学Ⅰ	PhoneticsⅠ	専門基礎	必修	講義	30	(2)	音声を調音様式と調音点という視点でまとめ、表記方法を学ぶ。抑揚や調音結合など話しことばの変化にも注目する。
	言語発達学Ⅰ	Speech DevelopmentⅠ	専門基礎	必修	講義	30	(2)	前言語期から言語期の発達段階それぞれの言語発達を学習する。障害の把握に必要なスクリーニングについて学ぶ。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
プロ フェ ッ シ ョ ナ ル プ ロ グ ラ ム	言語聴覚障害概論	Introduction to Speech and Hearing Disabilities I	専門	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士の援助の対象となるコミュニケーション障害の概要について学ぶ。
	言語聴覚障害診断学 I	Diagnosis of Speech and Hearing Disabilities I	専門	必修	講義	30	(2)	小児の言語聴覚療法の評価・治療について学び、学内実習に対応できるようになる。
	失語症 I	Aphasia I	専門	必修	講義	30	(2)	成人の臨床場面で接することが多い失語症の基礎知識や検査方法について学ぶ。
	言語発達障害学 I	Language Development Disorders I	専門	必修	講義	30	(2)	言語発達障害についてその障害知識および指導法等を学ぶ。
	嚥下障害概論	Introduction to Dysphagia	専門	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士に対する社会的ニーズの高い摂食嚥下障害の解剖学的知識やメカニズムなどの基礎知識を学ぶ。
	聴力検査法 I	Hearing Test I	専門	必修	講義	30	(2)	純音聴力検査が手順通りに実施できるようになる。
総コマ数 14		総時間数 435						総単位数 29

2022年度 教科課程

〈後期〉 言語聴覚士科Ⅱ部 1年

後期目標

学内実習や臨床実習を通し、言語聴覚士に必要な専門的知識や能力を習得する。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
ミッション プログラム	病理学	Pathology	基礎	必修	講義	15	(1)	がんや自己免疫疾患など様々な病気について、原因や診断、進展機序を学ぶ。
	内科学	Internal Medicine	専門基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚療法と関係の深い内科疾患について臓器別に病因や特徴、治療について学ぶ。
	小児科学	Pediatrics	専門基礎	必修	講義	30	(2)	新生児期から思春期へと、子どもの発達・成長から病気、遺伝疾患や症候群について学ぶ。
	臨床歯科医学・ 口腔外科学Ⅰ	Clinical Dentistry and Dental SurgeryⅠ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	言語聴覚士として必要な臨床歯科医学・歯科口腔外科領域の知識を学び、理解する。
	臨床心理学Ⅰ	Clinical PsychologyⅠ	専門基礎	必修	講義	30	(2)	臨床心理の基礎から評価および心理療法までを学習し、障害受容について学ぶ。
	生涯発達心理学	Life-long Development Psychology	専門基礎	必修	講義	30	(2)	生まれてから死に至るまでの流れを発達として捉え、それぞれのライフサイクルにおける発達課題を探究する。
	社会保障制度・ 関係法規Ⅰ	Social Security System・ Related LawsⅠ	専門基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士が知っておくべき医療・福祉に係る法律と患者様を支える様々な社会福祉制度について学ぶ。

区 分	開講科目名	English	分 類	必修 選択	授業 形態	時 間 数	(単 位 数)	教 科 目 標
プロ フェ ッ シ ョ ナ ル プ ロ グ ラ ム	言語聴覚障害診断学Ⅱ	Diagnosis of Speech and Hearing DisabilitiesⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	成人の言語聴覚療法の評価・治療の一連の流れについて学び、各種報告を作成する力を身につける。
	言語聴覚障害診断学Ⅲ	Diagnosis of Speech and Hearing DisabilitiesⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	成人の言語聴覚療法の評価・治療について学びを深め、臨床実習に対応できるようになる。
	失語症Ⅱ	AphasiaⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	失語症の評価や治療方法について学び、一連の流れを理解する。
	高次脳機能障害学Ⅰ	Higher Brain DysfunctionⅠ	専門	必修	講義	30	(2)	記憶や注意などの高次脳機能について、その種類、障害、評価方法、治療について学ぶ。
	高次脳機能障害学Ⅱ	Higher Brain DysfunctionⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	各々の高次脳機能障害特徴とそれぞれに対応する検査の目的と実施方法および結果の解釈について理解する。
	言語発達障害学Ⅱ	Language Development DisordersⅡ	専門	必修	講義	60	(4)	言語障害児に対する学内実習を通し、評価や治療に関する知識や技能を身につける。
	音声障害Ⅰ	Voice Disorders Ⅰ	専門	必修	講義	15	(1)	音声表出の元となる「声」を生成する器官の解剖・生理および疾患について理解する。

プロフェッショナル プログラム	機能性構音障害	Functional Articulation Disorders	専門	必修	講義	30	(2)	機能性構音障害の基礎的知識と構音検査および訓練法を習得する。
	器質性構音障害	Organic Articulation Disorders	専門	必修	講義	15	(1)	器質性構音障害の基礎的知識と評価治療を習得し、症例報告の書き方を学ぶ。
	運動障害性構音障害 Ⅰ	Dysarthria Ⅰ	専門	必修	講義	30	(2)	運動障害性構音障害の基礎知識や、評価方法について学ぶ。
	運動障害性構音障害 Ⅱ	Dysarthria Ⅱ	専門	必修	講義	30	(2)	運動障害性構音障害の基本的知識や評価方法を振り返り、治療法を身につけ、適切な対応について学ぶ。
	嚥下障害 Ⅰ	Dysphagia Ⅰ	専門	必修	講義	30	(2)	嚥下障害の基礎知識を振り返り、評価方法を身につけ、治療法の概論を把握する。
	小児聴覚障害	Infantile Auditory Rehabilitation	専門	必修	講義	15	(1)	小児難聴の評価や支援の視点を学び、言語と聴覚は密接に関わっていることを理解する。
	臨床実習 Ⅰ	Clinical Practice Ⅰ	専門	必修	実習	160	(4)	現場において患者様に対する接遇、様々な障害の評価方法、評価結果の分析および、他の医療職からの情報収集の方法を習得する。これを通して患者様の状態を総合的に評価し治療プログラムを立案できる。
総コマ数 21		総時間数 715					総単位数 41	

2022年度 教科課程

〈前期〉 言語聴覚士科Ⅱ部 2年

前期目標

言語聴覚士として必要な専門的知識を身につけ、国家試験合格に結びつく知識を習得できる。

区 分	開講科目名	English	分 類	必修 選択	授業 形態	時 間 数	(単 位 数)	教 科 目 標
ミ ッション プ ロ グ ラ ム	耳鼻咽喉科学	Otolaryngology	基礎	必修	講義	30	(2)	耳・鼻・口・喉の病気について病因や特徴、医学的治療について学ぶ。
	精神医学	Psychiatry	専門基礎	必修	講義	15	(1)	精神障害の分野について医学的側面から学習する。
	臨床神経学	Clinical Neurology	専門基礎	必修	講義	30	(2)	脳血管障害や脳腫瘍などの言語障害を引き起こす脳疾患の病態、画像診断、医学的治療について学ぶ。
	形成外科学	Plastic Surgery	専門基礎	必修	講義	15	(1)	口蓋裂などの形成外科的疾患や皮膚疾患の病態や医学的治療について学ぶ。
	心理測定法	Psychological Measurement	専門基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士として必要な心理現象の測定方法に関する知識を習得する。
	音響学・聴覚心理学	Acoustics and Audio Psychology	専門	必修	講義	30	(2)	音の構成を物理科学的に分析する音響学や、音の心理的側面について学習し、音響分析を体験する。
	リハビリテーション概論	Introduction to Rehabilitation	専門基礎	必修	講義	30	(2)	様々なリハビリテーションの種類と概要について学び、他職種連携力を身につける。

区 分	開講科目名	English	分 類	必修 選択	授業 形態	時 間 数	(単 位 数)	教 科 目 標
プロ フェ ッ シ ョ ナ ル プ ロ グ ラ ム	地域言語聴覚療法学	Community- based Speech and Hearing Therapy	専門	必修	講義	15	(1)	地域包括ケアシステムとともに、言語聴覚士が行う訪問リハや通所リハの実際について学ぶ。
	言語聴覚障害診断学Ⅳ	Diagnosis of Speech and Hearing DisabilitiesⅣ	専門	必修	講義	30	(2)	臨床実習での経験を踏まえ、症例を通じて言語障害者の評価・治療について学ぶ。
	失語症Ⅲ	AphasiaⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	失語症の症状や評価・治療を振り返り、国家試験に対応できる力を身に付ける。
	高次脳機能障害学Ⅲ	Higher Brain DysfunctionⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	国試対策の一環として、過去問を使用しながら、高次脳機能障害について確認する。
	言語発達障害学Ⅲ	Language Development DisordersⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	学習障害・脳性麻痺の、メカニズム・障害・指導について理解を深め、臨床に於ける基盤を作る。
	嚥下障害Ⅱ	DysphagiaⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	嚥下障害の治療に関わる知識や技術を習得する。
	吃音	Stuttering	専門	必修	講義	15	(1)	吃音に関する基礎知識、評価、指導といった一連の流れを学習する。
	運動障害性構音障害Ⅲ	DysarthriaⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	運動障害性構音障害の基礎知識や評価・治療を振り返り、国家試験に必要な知識を学ぶ。
	補聴器・人工内耳	Hearing Aid and Artificial Inner Ears	専門	必修	講義	30	(2)	補聴器の仕組みや特徴を理解する。人工内耳についてその特徴や適応、調整方法について学ぶ。
総コマ数 16		総時間数 420						総単位数 28

2022年度 教科課程

〈後期〉 言語聴覚士科Ⅱ部 2年

後期目標

これまでの学習の総まとめとなる臨床実習を経験し、言語聴覚士としての実践力を習得する。
国家試験に合格できる知識を身につける。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
ミッション プログラム	解剖生理学Ⅱ	Anatomy and PhysiologyⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	人体の解剖について復習し、国家試験に対応できる力をつける。
	臨床医学	Clinical Medicine	専門基礎	必修	講義	30	(2)	1年次に学んだ臨床医学の知識について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。
	臨床歯科医学・口腔外科学Ⅱ	Clinical Dentistry and Dental SurgeryⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	臨床歯科医学・歯科口腔外科領域の知識を復習し、国家試験に対応できる力を身につける。
	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅱ	Physical and Functional Diseases of the Respiratory SystemⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	発声発語器官の解剖生理や病気について振り返り、問題を解きながら理解を深める。
	聴覚系の構造・機能・病態Ⅱ	Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	聴器の解剖生理や病気について振り返り、問題を解きながら理解を深める。
	神経系の構造・機能・病態Ⅱ	Physical and Functional Diseases of the Nervous SystemⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	言語聴覚士の資格取得に相応しい神経系の知識を再確認し、問題を解きながら理解を深める。
	臨床心理学Ⅱ	Clinical PsychologyⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	言語聴覚士に必要な臨床心理に関する知識を習得するとともに、国家試験に対応できる力を身に付ける。
	学習・認知心理学	Learning Cognitive Psychology	専門基礎	必修	講義	30	(2)	学習、記憶、感覚、知覚、認知などについて学ぶ。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
ミ シ ヨ ン プ ロ グ ラ ム	音声学Ⅱ	PhoneticsⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	過去問題や模試問題を解きながら、音声学の基本知識のおさらいをし、国家試験に必要な力を身に付ける。
	言語学	Linguistics	専門基礎	必修	講義	30	(2)	言語学の様々な分野における基礎知識を身につけ、科学的に言語を分析する視点を身につける。
	言語発達学Ⅱ	Speech DevelopmentⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	健常児の言語発達などについて復習し、国家試験に対応できる力を身につける。
	社会保障制度・関係法規Ⅱ	Social Security System・Related LawsⅡ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	言語聴覚障害に関連する社会福祉関係法規について振り返り、国家試験に対応できる力を身につける。
プ ロ フ ェ シ ヨ ナ ル プ ロ グ ラ ム	言語聴覚障害診断学Ⅴ	Diagnosis of Speech and Hearing DisabilitiesⅤ	専門	必修	講義	30	(2)	臨床実習での経験を踏まえ、言語障害者の評価・治療について振り返るとともに、国家試験に対応できる力を身につける。
	言語発達障害学Ⅳ	Language Development DisordersⅣ	専門	必修	講義	30	(2)	国試対策の一環として、過去問を使用しながら、言語発達障害について確認する。
	音声障害Ⅱ	Voice DisordersⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	音声障害の病態・評価・治療の流れを学び、国家試験に対応できる力をつける。
	嚥下障害Ⅲ	DysphagiaⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	嚥下障害の基礎知識や評価や治療について臨床実習の経験とあわせ復習し、国家試験に対応できる。
	聴力検査法Ⅱ	Hearing TestⅡ	専門	必修	演習	30	(2)	聴覚を適切に評価し支援内容を検討する力を養うため、各種聴力検査について目的・方法・結果の解釈を理解する。
	成人聴覚障害	Auditory Rehabilitation	専門	必修	講義	15	(1)	先天性難聴・中途失聴・老人性難聴の影響、情報補償、支援について学ぶ。国家試験で問われる知識を確認する。
	臨床実習Ⅱ	Clinical PracticeⅡ	専門	必修	実習	320	(8)	臨床実習Ⅰでの総合的に評価する方法を基に、更なる情報収集と様々な障害に対する治療方法および再評価の方法を学び、症例報告を経験する。
総コマ数 19		総時間数 695						総単位数 33